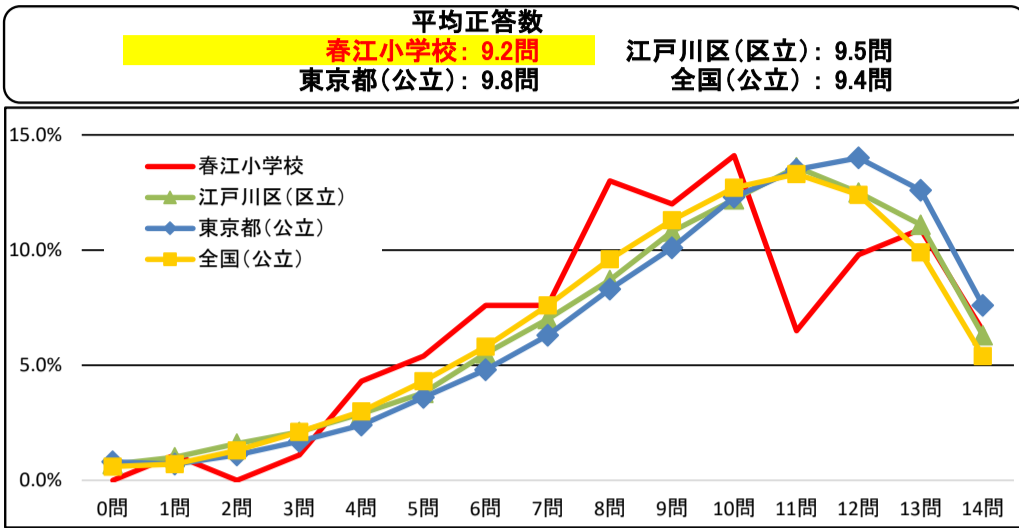


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】春江小学校

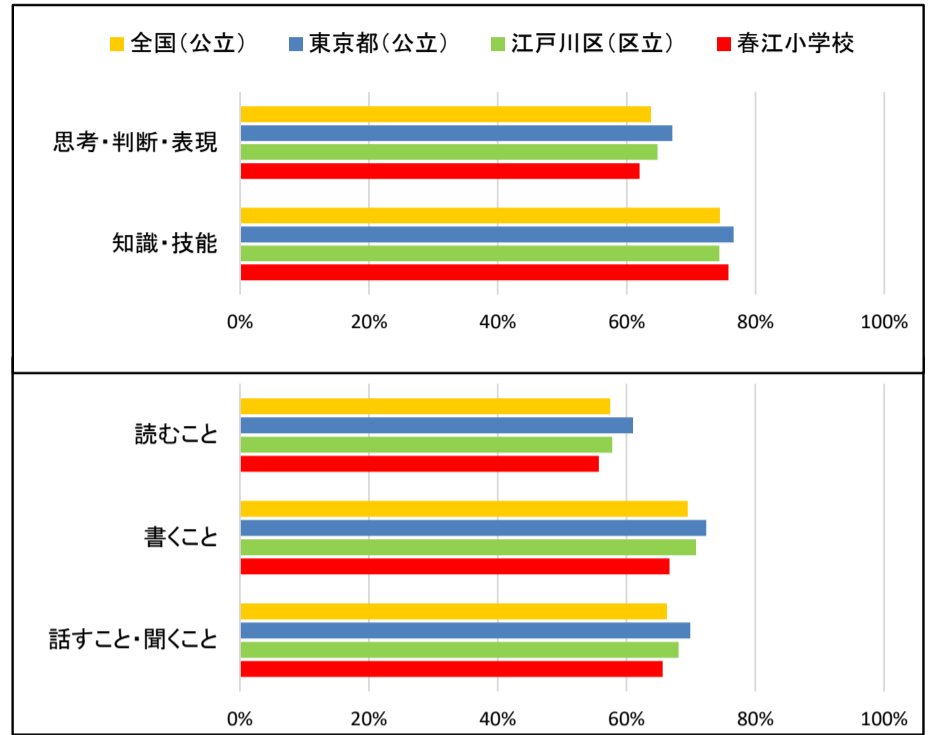
正答数分布



【平均正答率の差】

春江小学校	66%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	66.8%
都との差(ポイント)	-4.0

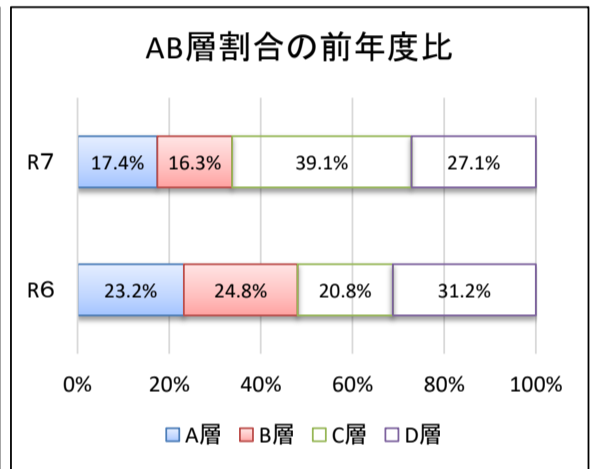
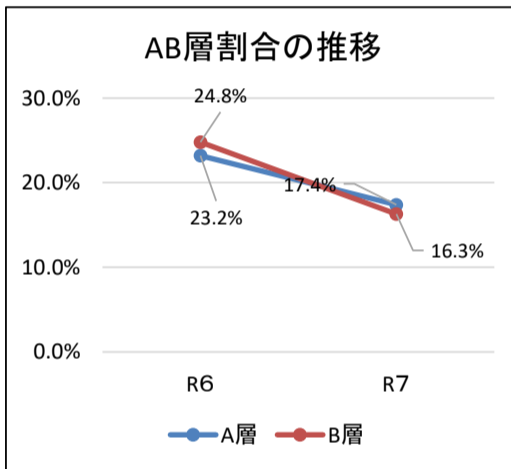
「領域別」の結果



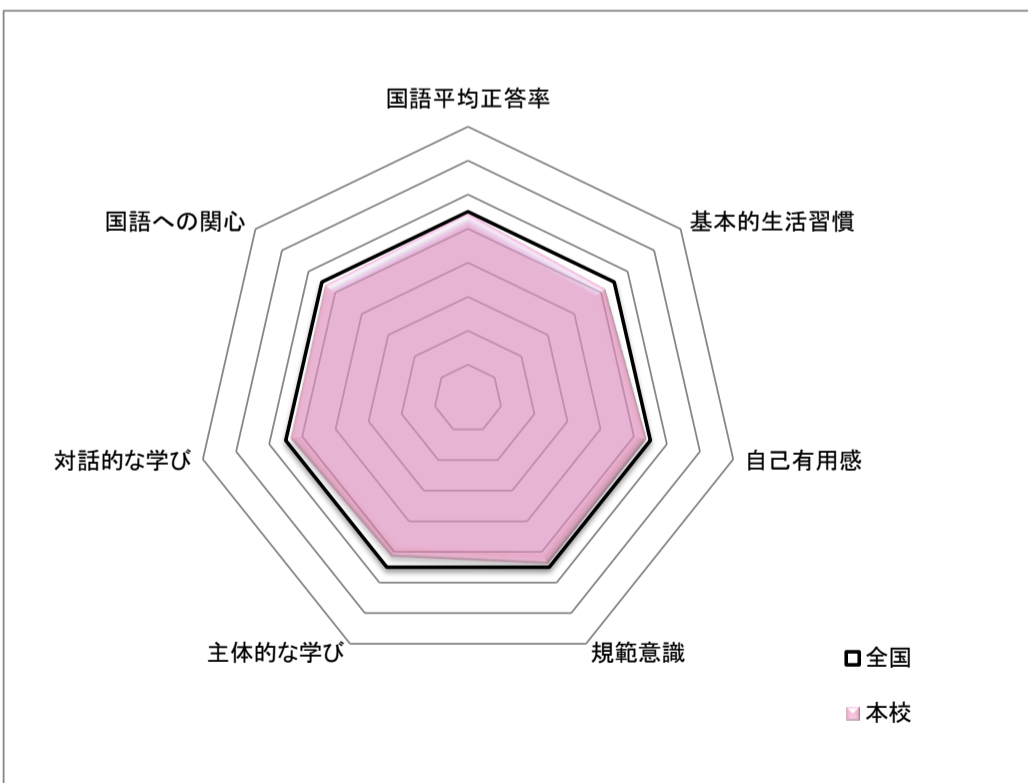
四分位における割合(都全体の四分位による)

国語	上位 ← 下位			
	A層 12~14問	B層 10~11問	C層 8~9問	D層 0~7問
春江小学校	17.4%	16.3%	39.1%	27.1%
江戸川区(区立)	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%
東京都(公立)	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%
全国(公立)	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

- ・国語の平均生徒率は、高くないものの、国語への関心は全国平均と比較し、やや高い。
- ・自己有用感、規範意識、主体的な学び、対話的な学びについては、全国平均をやや下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・保護者会や学年だよりなどで、学習内容や身に付けさせたいことを共有し、家庭での学習習慣を身に付けさせる。
- ・家庭内での仕事を分担し、仕事をしたら、子供をほめることで、子供の自己有用感を育てていくことに協力してもらう。

《現状把握》

- AB層の割合と取組内容について
- ・AB層の割合は、令和6年度と比較し、10ポイント以上下回っている。
- ・児童の実態や教材の特徴を考え、多様な課題解決の方法を授業に取り入れ、表現活動が活発に行われるようにする。
- ・文章の読み取りの学習では、どの表現をもとにしてどんなことが読み取れるのかなど、根拠を明確にする指導を行っていくことで、読み取りの能力を高めていく。

《学校の取組》

- ・教員の指導力向上
- ・校内研究の充実(わかる、できる、楽しい、もっとやりたい)を図る。
- ・ICTを効果的に活用した授業改善を図る。
- ・教科担任制による指導(4~6年)・校内研修(春江塾)を実施する。
- ・ねらいに即したまとめ、振り返りの実施する。

・基礎学力の保障

- ・ミライシードを積極的に活用する。(授業、朝学習、家庭学習)
- ・よむyomuワークシートの実施(4~6年)
- ・江戸川区学力定着度調査の活用(4、5年)

・学習習慣の確立

- ・江戸川っ子study week!での学習習慣の確立を図る。
- ・家庭との連携・SNS学校、家庭ルールの徹底を図る。

・AB層の育成

- ・国語の学習では、教材を通して自分の考えを深める活動を多く取り入れ、表現力を伸ばしていく。また、日常から文章を書く機会を多くもち、内容の構成等を整理して適切に相手に伝えたり、聞き取ったりする力を身に付けていくよう指導する。